

「事業名:公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた復興知人材育成

東京大学 連携市町村:新地町

連携市町村との協定締結日:平成30年6月3日

現地拠点:相馬郡新地町駅前1丁目5番地 観海プラザA棟1階 新地アーバンデザインセンター(UDClんち)

事業のポイント

福島県新地町において、地域エネルギーシナリオ作成、住民参加促進、地域状況を伝えるメディア作成や地域活動支援、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点UDClんちを活用して公・民・学共創により実践する。これにより、復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。

人材育成目標

時間の経過とともに変化する地域の復興状況や、地域の人々の心情や意向を丁寧に理解するという地域に関わる観点と、国内外の社会情勢や地球規模での目標を適切に把握し、地域の実情や目標を考慮しつつ、地域課題の解決や地域の将来ビジョン・施策を提案するという観点を習得し、それを実践することができる人材を育成することを目標とする。

2022年度の活動内容

1. UDClんちを活用して、研究教育活動を行う。分科会を開催し、また、尚英中学校・新地高校との交流事業、まちづくりワークショップや成果発表会の開催を通じて、地域との共創の場を提供する。
2. 運輸部門のエネルギー需要推計と再生可能エネルギー導入ポテンシャル評価、実際の導入に向けた課題抽出を「環境システム学輪講」および「環境システム学実地演習」として実施する。
3. 地域の広場の利用を地域と一体で考える「地域活動デザインスタジオ」等、新地町の住民参加の促進をはかる演習を実施する。
4. 地域に関心を寄せ続けさせるためのメディア製作に取り組む「情報環境デザインスタジオ」を浪江町で実施する。
5. 協働シンポジウム開催や協力自治体での活動等を通じて、大学間・地域間連携を進める。

取り組みによって得られる成果

- 復興知人材の育成に資する大学院正規科目を構築し継続的に提供する基盤が整備される。
- 現地拠点UDClんちが、大学と地域にかかわる多様な主体による共創を実践する場となる。
- 地域エネルギーシナリオ作成の手法構築、住民参加を促進する手法の検証、浜通りからの情報伝達に特化したヒューマンインターフェースの開発、関係人口論の深化、等の新たな知見を得る。

